



2021年10月上旬配本予定

# ジャコメッティとの最後の会話

## ある芸術家の精神的遺言

ジャン・クレイ 粟津則雄 訳

彫刻家アルベルト・ジャコメッティが芸術と人生について語った、晩年のインタビューの記録。

「ジャコメッティの彫刻は知ってる？」

「ええ、ステキだわ」

「彼はこう言った。“火事になったらレンブラントの絵よりも猫を救う。そしてあとで放してやる”」

「すばらしいわ」

「そうだね。“芸術より人生を”だ」

これはクロード・ルルーシュ監督の映画『男と女』の中の印象的なセリフのやりとり。じつは、本書でのジャコメッティの発言に由来しています。

日本の彫刻家・若林奮もこの発言をとりあげて、「ジャコメッティが気にかけていたのは、生命そのもの、生命全体だ」と述べたことがあります。がんによる生命の危険にさらされながら、人間だけではない、むしろ人間が忘れがちな「生命そのもの」へと目を向け、晩年のジャコメッティはますます活気づいているようです。

本書の内容は、ジャコメッティのエッセイや対談を集めた『ジャコメッティ エクリ』の日本語版には未収録、フランス語版でも抜粋でしか読めません。パラドックスを恐れないジャコメッティの勇敢な発言を、本書でぜひお読みいただきたいと思えます。

薄い小冊子ですが、代表的な作品の写真も掲載しています。「ジャコメッティ入門」として最適の一冊です。

「一つの彫像を仕上げようなどという考えは、もう頭をかすめもしなかった。成功しようがしなかりうが、そんなことはもう馬鹿にしていた……。何はともあれ、進んでゆくだけだ」

——アルベルト・ジャコメッティ  
(本書「矢内原氏の像」より)



〈ヤナイハラ〉 国立国際美術館蔵

本体1,000円+税  
A5判・並製(小口折り表紙)・32頁  
ISBN978-4-9912228-0-1 C0071



表紙のイメージ

著者:ジャン・クレイ

美術評論家、ジャーナリスト、美術史家。月刊誌『レアリテ』などで評論活動を展開。1976年には自身が中心となり美術雑誌『黄斑(マキュラ)』を創刊。著書に『現代美術の顔』『印象派から現代美術へ』『ロマン主義』『印象派の理解』等(いずれも未邦訳)。

訳者:粟津則雄(あわづ・のりお)

1927年愛知県生まれ。1952年東京大学仏文科卒業。著書に『粟津則雄著作集』全11巻(思潮社)、『西行覚書』(思潮社)、『ピカソ 二十世紀美術断想』(生活の友社)ほか。訳書に『ランボオ全詩』、モーリス・ブランショ『来るべき書物』、アントナン・アルトー『ヴァン・ゴッホ』ほか。

球形工房について:2021年、出版社としてスタート。本書が一般向け書籍第1弾になります。今後も芸術書や人文書のジャンルを中心に、(猫の手を借りながら)出版活動をしてまいりますので、よろしくお願ひします。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com  
TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)   ご担当: 様	新刊 球形工房	https://www.kyukeikobo.com 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人
	注文数	注文数
<h2>ジャコメッティとの最後の会話</h2> <h3>ある芸術家の精神的遺言</h3> <p>ジャン・クレイ 粟津則雄 訳                  本体1,000円+税/32頁/A5判・並製(小口折り表紙)                  ISBN978-4-9912228-0-1 C0071</p>		